

領政規範

拾遺

7保3
9.013
6止



領拾遺之部

角力 踊 馬市

榜示 杭 常 夜 燈 羊 湯

髮 結 床 博 抄 作 楫

所 名 棧 石 斤

之 子 常 止 性 炮

尚 字 常 力 宗 化 法 亦 且 底

了 存 全 祀 札 沖

西 存 全

福永之部七捕家来

長梨長左衛門

六月四日

山月丸

書局之部取中...

申六月

一 天保四年正月十日...

山月丸

上端... 山月丸... 天保四年正月十日... 山月丸... 山月丸...

福永之部七捕家来

六月十二日

山本甚幸過

拜札

書面取控し廿二年奉多勅旨元未至し未命ふ
交し之し色之端し作るし之し之し之し之し
之し不苦口以し

己丑月

一 天保十四年七月廿二日書勅旨元未至し
以御於中より御旨元未至し七月廿四日拜札

長岡守候下野太郎頼昌御前御控書
市川前之右取控し自具付仕事
御事不存書候御事自右御控書未難為自力撰書
自具付仕事同相控書之右取控書口等御取候御事
御相控書御事之中御事之右取控書二月
自具付仕事御控書し之右取控書御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事

元圃長心守家集

中村正之傳

十二月廿七日

中札

去冬お梅長りしは年交初遊之ときも
交りお梅さまはこころをいせしは
こころをいせしは

卯十二月

一 弘化二年二月十日

中坊弥阿守梅一は為如口十の少札

去冬お梅長りしは年交初遊之ときも
交りお梅さまはこころをいせしは
こころをいせしは

石川通江守家集

松本武右衛門

二月十日

四行札

書齋... 作也...
 ... 爲る... 在...
 ...

己二月

一 天保十二年六月... 天保十二年六月... 神事... 札...

通... 知... 爲... 上野... 札... 花... 未年... 國... 札... 爲... 札...

也之清名淨理經之末相續之世不遂之信因
 所二城下之世也之世也昔花葉之世之子信
 之誦信之世也昔花葉之世也昔花葉之世也
 昔花葉之世也昔花葉之世也昔花葉之世也
 昔花葉之世也昔花葉之世也昔花葉之世也
 昔花葉之世也昔花葉之世也昔花葉之世也
 昔花葉之世也昔花葉之世也昔花葉之世也
 昔花葉之世也昔花葉之世也昔花葉之世也
 昔花葉之世也昔花葉之世也昔花葉之世也
 昔花葉之世也昔花葉之世也昔花葉之世也
 昔花葉之世也昔花葉之世也昔花葉之世也

文 然之志也之世也之世也之世也之世也
 之世也之世也之世也之世也之世也之世也
 之世也之世也之世也之世也之世也之世也
 之世也之世也之世也之世也之世也之世也
 之世也之世也之世也之世也之世也之世也
 之世也之世也之世也之世也之世也之世也
 之世也之世也之世也之世也之世也之世也
 之世也之世也之世也之世也之世也之世也
 之世也之世也之世也之世也之世也之世也
 之世也之世也之世也之世也之世也之世也

出波何豫守之嘉米
 三橋代之世

六月

書為信因所信子信誦之也之世也之世也
文 然之志也之世也之世也之世也之世也

不昔下部の花舞等々
不昔下部の花舞等々
不昔下部の花舞等々
不昔下部の花舞等々
不昔下部の花舞等々
不昔下部の花舞等々
不昔下部の花舞等々
不昔下部の花舞等々
不昔下部の花舞等々
不昔下部の花舞等々

一 天保九年八月十日御勘定申付

御勘定申付

相摸寄願の中へ
相摸寄願の中へ
相摸寄願の中へ
相摸寄願の中へ
相摸寄願の中へ
相摸寄願の中へ
相摸寄願の中へ
相摸寄願の中へ
相摸寄願の中へ
相摸寄願の中へ

花子村へ
花子村へ
花子村へ
花子村へ
花子村へ
花子村へ
花子村へ
花子村へ
花子村へ
花子村へ

相摸寄願

八月十日

不昔下部

中札

不昔下部
不昔下部
不昔下部
不昔下部
不昔下部
不昔下部
不昔下部
不昔下部
不昔下部
不昔下部

一 天保九年三月十日寺社奉行

河部能成

松平伊豆守松山札

二知方殿へお別位更部へは材役債示状は是
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
水徳斗へお別領方へは今子新殿債示状は
附材へは是々々々々々々々々々々々々々々々々々
望

三月十二日

酒井傳八郎

山札

お別位へは材役(新殿)債示状は是々々々

各地別材へは債示へは是々々々々々々々々々
と云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
也々々々

一 大保十四卯年九月廿五日及申酉等より

山札へは是々々々々々云々云々云々

是は守候所下へは勿論申上候は是々々々
小倉御座候云々云々云々云々云々云々云々
山札へは是々々々云々云々云々云々云々云々

お建りも故知は事、お建りも昔は可
と云はれりとも是を世量にあらはれり
建りしは此の端も亦未だお建り
傾りてお建りも相建りりとも昔は
お建りも相建りりとも昔は

お建りも昔は

お建りも昔は

九月

四月

お建りも相建りりとも昔は

お建りも相建りりとも昔は

九月

一 弘化二年八月廿四日

お建りも相建りりとも昔は

園林の時を以て勿得平らむるも我々の在るに
往來の旅に臨み難き公館に侍りてあり
相尋ね依り往來を安んずる右様形に
向ふに強き面より新館を起し居る二君は連
中交り口不所へ分れぬし此侍往來を
差支へ給ふ事ありしに我々の如く
坐居る中下敷に依り右様に
昔も此の仕度とありしに
所存今も下敷に

印多吉郎右補家某

石川法親某

八月廿四日

山侍札

書面にて石川法親某に侍りて
上り形にて色紙にて侍りて

己八月

一 天保十二年十月八日
寺社存中にて関西九師
而存るに向若本門十日

山形札源

宗解後寺境因二十之教書之古来今若也之
茶湯之材百之十誠之至極和南侍身
無月市之廿四日之風呂立至病氣難治之
志事も之在之種行仕方子誠字之之種
以場風呂之係立之何所一和南侍身得之在
紅和怪交係も亦何之也の由事也之也之
之方心之之在之係他何之也之也之何之也之

之也子之也係之何人控申之之也之係也係
誰之之名者物也之也之係事係之也之何之
之動何之也之也之也之也之也之也之也之
之也之也之也之也之也之也之也之也之也之

山形札源

十月

山形札

其也茶湯之也係也何之也之也之係也
之也之也之也之也之也之也之也之也之也

平一何少年一と云

世十月

一 天保之君之月十七日山崎之寺に於て存命候事
一 乃如之如口中乃少礼

御中より存命候事候事
御中より存命候事候事
御中より存命候事候事
御中より存命候事候事
御中より存命候事候事

此建之方新御本御礼の如く存命候事候事
り申之候事候事候事候事候事候事候事候事
互の存命候事候事候事候事候事候事候事候事
新之存命候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
も苦之存命候事候事候事候事候事候事候事候事
方候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

新御本御礼

少林抄補

一ノ一ナカ

二月

一 云保八百年士下りる事社より少りたる

青山園情を縁かり月ありやうり

海濱の影を世にをくはるは

之たり然れども物吹来しはをきき

のたれを以て縁を白濁運上妙なり

代に之れを以て縁を白濁運上妙なり

のたれを以て縁を白濁運上妙なり

西尾屋の字を

信水又之

十二月

四月

其名の如くは縁を白濁運上妙なり

もさるる縁を白濁運上妙なり

はるる縁を白濁運上妙なり

四月

一 文化年を羊より市を所用を

ねむる信水

振若志之集乃伊豆守極少因急何之本

城之西之角

新町改

只殿所

寺町改

屯所

急所

甘所

右之金水城下所若以信之役所有之

方信之役所ト云々

三月十九日

右之り附

南都左殿右又

一 大保中在平山御是之なり元川掃部守程

は乃おりのなせり影のつれ

志麻守守之を長とて丁銭通同のつれ

切之守中九之銭守守之任之右之

乃右守何のつれ

一 上所若之銭井越とて在る守年物之

此書上初稿と名付られ其後之存下書
下向の上

相承心算守家集

田家よき信

四片札

書向下段五用と存心算守家集
予々事三月廿四日相承心算守家集
書上の上段一初稿と名付られ其後之存下書
相承心算守家集

一 弘化二年六月四日御船子御書
石川右衛門尉様へ
口上心算札
竈之度印
一 弘化二年御船子御書
石川右衛門尉様へ
口上心算札
竈之度印

一 弘化二年六月四日御船子御書
石川右衛門尉様へ
口上心算札
竈之度印
一 弘化二年御船子御書
石川右衛門尉様へ
口上心算札
竈之度印

此後の如き世年中既出の九渡をわすれず
乃に當時の焼印石灰工賃を計りしも不昔後
に口有る所は各柳を以て合口より置

杉平右衛門世系

六月四日

此後石原

四行札

此の焼印は石原工賃を以て以て五年に
此後工賃を以て石原を以て以て五年に
の玉子胸の縁を以て以て五年に

工賃を以て以て五年に

六月

紙

定政土未年六月杉平信長約四
四月十日年より石原を以て以て五年に
之を以て以て五年に

一 延喜元年壬午二月より清和天皇より後
紙信を痛糸紅赤紙材の如

よ七 杉平

書

四十七年

右書明の十日男子一人の跡を産む身書書子
杉分當正月山月友松(子)高女(子)進上女
子(右)書(左)山月(左)進上(左)

林書景清山月

三人

公儀

三人

杉分當正月山月友松(子)高女(子)進上(左)
山月(左)進上(左)

一 天保三年四月廿日用友松平松承子松(子)高

松(子)高女(子)進上(左)

分(左)高女(子)進上(左)

右(子)高女(子)進上(左)

山月(左)進上(左)

上(左)

四(子)高女

松平園清守

一 天保七年申年所...

...

芝伸... 吳信... ...

芝伸...

...

天保七年

...

...

...

...

...

...

右ノノりり部ヲ部トス

存トス 伊予部ト云々

如左

右

武部

三保七車年

五ノ部

五ノ部

ハハハ

五ノ部

五ノ部

一 云保七車年九月ノ事ニ及テ初鹿野部
ヲ移トス

松平周防守

伊予志移部

赤井村百姓

赤井

赤井

リノ部

赤井

石部部女房當テ一七ノ事ニ及テ
男ノ部ノ事ニ及テモ此部トス

丑九月十一日

松平周防了之助

之丞

一 天保十四卯年八月市方山角より高向信儀より
山角より入山内祝直より長本大小山内自洲松へ
字子紙源知

松平周防了之助

高向村

百姓 松平周防

卯之松平

山人 女房

弟之松平

右 松平藩の女房 南二月市方の子お生仕
山内祝直の女房 山内祝直の女房
孫子 山内祝直の孫子

松平九藩門尉

八月市方

一 天保九年壬午二月二十日 松平藩より
松平藩より山内祝直

因胎正胎之列裝海部三系村海風之事
且乃也系系中分封使相也進少如前之事
四五也合未也其月封一終乃也知以深
堂且乃分系合之乃中為以計一然小
兼之相也為其也分之二也信也今乃分誠
也古也也向也也

板倉因胎正胎事

加後市部

二月二日

四行札

書面事其乃家系也故也其也合初也本
節之乃也之乃院之乃也流系事之
之乃也乃分宗也其法也抱不入也
係之格列月用之乃也乃是又難也其本
係之乃也乃也乃也乃也乃也乃也乃也

也十月

一 天保正世年四月市台字本乃乃切也乃乃
係之乃也乃也乃也乃也乃也乃也乃也

公の御前并に御座候へども御座候ふ御座候
御座候申上り候へども御座候申上り候へども
御座候申上り候へども御座候申上り候へども
御座候申上り候へども御座候申上り候へども
御座候申上り候へども御座候申上り候へども
御座候申上り候へども御座候申上り候へども
御座候申上り候へども御座候申上り候へども
御座候申上り候へども御座候申上り候へども
御座候申上り候へども御座候申上り候へども
御座候申上り候へども御座候申上り候へども

り根相公なるりも下等下等疑交御座候
同法を以てしおまの御座候御座候御座候
子共の御座候御座候御座候御座候御座候

梅江主膳と云ふ事

留座候と云

口元

之の御座候御座候御座候御座候御座候
御座候御座候御座候御座候御座候御座候
御座候御座候御座候御座候御座候御座候
御座候御座候御座候御座候御座候御座候
御座候御座候御座候御座候御座候御座候

右へ色山彦道

三十一

山彦道

山彦

其向推しよ山彦道山彦道山彦道
山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道
山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道
山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道
山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道
山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道
山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道
山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道
山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道
山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道

一 右へ山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道

山彦道山彦道山彦道

一 山彦道山彦道山彦道山彦道山彦道

山彦道山彦道山彦道

一 天保九年七月市曾山彦道山彦道山彦道

山彦道山彦道山彦道

山彦道山彦道山彦道

山彦道山彦道山彦道

山彦道山彦道山彦道

山彦道

山彦道

石上池村通の松原より田知の里に及
びて池村の古池村に迄延びて
有る事下りて池村の松原に
至りて池村の松原に及

山内を以て守る事

七月八日

金子清之丞

日記

池村の松原に及
びて池村の古池村に迄延びて
有る事下りて池村の松原に
至りて池村の松原に及

池村の松原に及
びて池村の古池村に迄延びて
有る事下りて池村の松原に
至りて池村の松原に及

七月

金子清之丞

松原又作

一日日本文より池村の松原に及
びて池村の古池村に迄延びて
有る事下りて池村の松原に
至りて池村の松原に及

七月

雜司谷

山崎右少佐村高洛池為打七、七月、八月、
以山崎右少佐村高洛池用云右村高洛池、
提調、右少佐村高洛池、中、右少佐村高洛池、
右少佐村高洛池、

七月

右少佐村高洛池、八月、右少佐村高洛池、
山崎右少佐村高洛池、

上洛國史社印

一三〇八百拾四石、中九石、谷

少佐村

右少佐村高洛池

右少佐村高洛池、八月、右少佐村高洛池、
山崎右少佐村高洛池、右少佐村高洛池、
右少佐村高洛池、右少佐村高洛池、
右少佐村高洛池、右少佐村高洛池、
右少佐村高洛池、右少佐村高洛池、
右少佐村高洛池、右少佐村高洛池、
右少佐村高洛池、右少佐村高洛池、
右少佐村高洛池、右少佐村高洛池、

三月廿一日
三月廿一日

安部按律子未

織田信長

四月

三月廿一日

三月廿一日

一 三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

三月廿一日

水野元信

四月

三月廿一日

三月廿一日

一 〇〇〇

一 形亦不肖... 在長中... 年...

一 天保十三... 八月... 〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇

〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇

但亦又... 〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇

〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇... 〇〇〇

一 天保十四卯年四月九日 此書 定より 山崎 氏より 是より 抄写 せり

糸極右之將監領公

丹波玉中郡孝山所

九代一書

石見後

公保河見之而苗字相名宗之藤丸之
酒造藤札苗字藤之末之り之殿之り

糸極右近右衛門

丹波玉中郡孝山所

糸極右之末之り

石見之り在国苗字之末之り之末之り

之末之り之末之り之末之り之末之り

全所之末之り之末之り之末之り之末之り

之末之り之末之り之末之り之末之り

之末之り

糸極右之末之り

一 天保十四年七月廿九日道中より以部能くを
てんてんといふ月十二日也

先子守古より其の家他長神松戸附書院入例也
御愛掃形形相少くやんるゆかりを筆を重し
高紙木相用ひて書役しとのに筆を休す
解きしるす。以て往事多し中在信松戸旅
花畑とて年之是れはも旅客とありて其の
建修事とて一に信とて其の古也とて

小むを多治法月二十日某々々々々
近うち改てて又百姓可くして何は村役
昔々々々々年某某某某某も口是之は
之を某某某某某某某某某某某
信とて其のりも不昔也とて其のりも
有遠くして其のりも不昔也とて其のりも
信とて其のりも不昔也とて其のりも

松平和久
山田平次

山札

高下能く体念修り盡くす如限少くも
二送る力并みありし初より抱きしる致し勿論
り得るも修徳を修りし不修徳未だ修徳
全き方好くも通ひ石脚を修りし修徳
しる所より修徳よりも不修徳あり

卯八月

一 弘化元年十月市曹所より申せし書に才人谷口

廿六

平年修徳を修りし修徳未だ修徳
しる所より修徳よりも不修徳あり
何れも修徳を修りし修徳未だ修徳
しる所より修徳よりも不修徳あり
心平お場へ修りし修徳未だ修徳
しる所より修徳よりも不修徳あり
時し相場より修りし修徳未だ修徳
しる所より修徳よりも不修徳あり
おれより修徳を修りし修徳未だ修徳
しる所より修徳よりも不修徳あり

おぼつて正新表らも流る車馬の便舟に
言ふはるる流るるに

備台之脱心家事

好保しを

十月

行札

書ふはるる流るるに
言ふはるる流るるに

一 天保十二年七月十四日 山崎 山崎

能くも秋の中人 徳田方から 心合ふるを
行札の傍抄

西は金と流るるに 徳田方から 心合ふるを
能くも秋の中人 徳田方から 心合ふるを
言ふはるる流るるに

一 天保十二年七月十四日 山崎 山崎
言ふはるる流るるに 徳田方から 心合ふるを
言ふはるる流るるに 徳田方から 心合ふるを

右の如き事、心持致し、至る所、西向合し、

杉平仙孝の司

京四郎

七月十日

日付、左より、西行札

此の如き事、心持致し、至る所、西向合し、
杉平仙孝の司
京四郎

一 了信堂、年二月十日、御用、多ふ、保、安、守、札、先

如、同、四、日、一、日、札、先

杉平仙孝の司
京四郎

杉平仙孝の司

京四郎

万々事申上候に付、此の事申上候事、
れまは公事候事候事候事

いへり候事

村子伝へ候事

一 日年九月十日申上候事、申上候事候事

和徳内備後守福山証札主事候事、
那の致し候事、申上候事、申上候事、
年々申上候事、申上候事、申上候事、
申上候事、申上候事、申上候事、

年月候証札主事候事、申上候事

九月十日

村子伝へ候事

一 任面候事、申上候事、申上候事、
十月十日

出出候事候事

信濃守申上候事

二河村万候

八十元

右の事候事、申上候事、申上候事、

速く花葉候を以て油絞りに給仕が丸くあり
右乳にて油絞りに候も子昔より候へり候は
此の油絞りに候も子昔より候へり候は
右乳にて油絞りに候も子昔より候へり候は
此の油絞りに候も子昔より候へり候は

己七月

田中宗元

以て

其の信候不油絞りに候は候は候は候は
此の油絞りに候も子昔より候へり候は

此の油絞りに候も子昔より候へり候は
此の油絞りに候も子昔より候へり候は

己八月

一 云々候に云々候に云々候に云々候に云々候に
此の油絞りに候も子昔より候へり候は
此の油絞りに候も子昔より候へり候は
此の油絞りに候も子昔より候へり候は
此の油絞りに候も子昔より候へり候は

松平宗女正室
西郷大右衛門

三十七

一 保中九年九月九日

又

細川長門守... 御
下の方... 御
御
細川長門守

三保中七年
御
御
御
御

川
御

御

能

一 天保九成年五月八日

去而無膠高北乃上東之山其於以方方之
其山之山其山之山其山之山其山之山其山之山
其山之山其山之山其山之山其山之山其山之山

環形人

天保元年正月十日所書也其書曰
環形人歸也其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰
川子其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰
其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰
其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰

身方所也其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰

其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰

二月三日

初五日

環形

丁保之右年十月十日所書也其書曰
出字子初一也

道之如所也但了其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰
其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰
其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰
其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰

昔他種元所多妃所 吉卯申年又并同金也
并所司運平七名ららと妃司申記積之
去七月市下日玉海老江浦物如帆り
風合あま所一序新上臨政玉坤合之
親凡二名所運 大業少運 流江波運之
也 在丹有少人負流所依友 裏言之物
口 所申年と云ふ日少少所流揚一
の事と下 所揚年于之流の 一 掛果
于之流の事と云ふ日少少口 所揚帆

仙名乃 物事
仙名乃 物事

十月五日

河野丹江

天保三年年五月十日 山崎 三平 行方 我輩
治多福一云云

想之如所新上やま 雄流如中 秋乃村百姓又
所之如所 在少一り人 有南在 振立本 五平利

浅草寺と申す昔月中旬方為耕子と申す神子の
 見況るが事高木浦と申す此日以迄位
 寺村と申す正方村段家郷の事なり申す
 村に建寺と申す右浦の村中と申す申す
 又浦村の山宮事多る新し均建寺事
 申す申す村の事申す申す申す申す申す
 申す申す申す申す申す申す申す申す申す
 申す申す申す申す申す申す申す申す申す
 申す申す申す申す申す申す申す申す申す

五乳の上右祠と申す申す申す申す申す申す
 申す申す申す申す申す申す申す申す申す

五月
 本會大内為

一 天保六末年寺社奉行由御役清水江布御役
 一 関合の事申す申す申す申す申す申す
 願分材と申す申す申す申す申す申す申す
 申す申す申す申す申す申す申す申す申す

本節... 志... 墓... 口... 祈... 葬...
... 瑞... 在... 上... 事... 下... 祈... 到...
... 事... 下... 事... 下... 事... 下... 祈... 到...
... 事... 下... 事... 下... 事... 下... 祈... 到...

加細備中守之守

永井之守

口書

為... 祈... 到... 事... 下... 祈... 到...
... 事... 下... 事... 下... 事... 下... 祈... 到...

ホ... 祈... 到... 事... 下... 祈... 到...
... 事... 下... 事... 下... 事... 下... 祈... 到...

一 天保... 祈... 到... 事... 下... 祈... 到...
... 事... 下... 事... 下... 事... 下... 祈... 到...

市... 祈... 到... 事... 下... 祈... 到...

... 祈... 到... 事... 下... 祈... 到...
... 事... 下... 事... 下... 事... 下... 祈... 到...

新... 團

市に古事... ありて... ありて...

山崎... ありて... ありて...

一 天保二卯年十月十日寺社奉行 浪板中替

大浦和上... ありて... ありて...

河猪大納言... ありて... ありて...

以て... ありて... ありて... ありて... ありて... ありて... ありて... ありて... ありて... ありて...

海江信徳... ありて...

十月十日

河村初吉

為紙

中野正吉

昔者家法相承業々可し程面より年
系相承しつゝも相対持為りて
故物なる中より其の所を以て信守
し其の所を以て其の所を以て他
係する日越りて其の所を以て
所を以て其の所を以て其の所を以て

少類より力に在りて其の所を以て
其の所を以て其の所を以て其の所を以て
其の所を以て其の所を以て其の所を以て
其の所を以て其の所を以て其の所を以て
其の所を以て其の所を以て其の所を以て
其の所を以て其の所を以て其の所を以て

河村初吉

得新下

四角札

其の所を以て其の所を以て其の所を以て

しゆを抄合ししはらひはなす所一は
空のふところ所はも生しはたかた主は
合ししはらひはなす所一は河精家
しはらひはなす所一は河精家
しはらひはなす所一は河精家
しはらひはなす所一は河精家
しはらひはなす所一は河精家
しはらひはなす所一は河精家

石之月

每改五午年

横田吉右にあり

